令和２年度　学校評価　自己評価書

あま市立伊福小学校

１　本年度の目標

⑴ 教育目標（学校経営案より）

知・徳・体の調和のとれた人間形成を図る。

【知】自ら学び、進んでやり通す児童

【徳】思いやりがあり、助け合う児童

【体】明るく、たくましい児童

⑵ 本年度の重点努力目標（あま市教育立市プランに基づく）

ア　確かな学力

・ ユニバーサルデザインの視点による学習規律の確立
・ しっぴータイムの充実
・ ＩＣＴの活用と主体的な学びの工夫

イ　豊かな心と健やかな体

・ 気持ちのよいあいさつ・返事の励行
・ 心を合わせた合唱の充実
・ 体幹を鍛える姿勢体幹体操の活用

ウ　働き方改革とコンプライアンス遵守

・ 業務内容の精選・改善や職務の優先順位の見直し工夫
・ 生きがいや働きがいを大切にしたライフ＆ワークのバランスの工夫
・ 風通しのよい温かい職場環境作り
・ コンプライアンス面談や研修の推進

エ　コミュニティスクール

・ ホームページ等を活用した取組内容の周知
・ 地域人材の積極的な活用

オ　安全教育の充実

・ 見守り隊の充実とハザードマップの刷新
・ 校内環境の美化・整備

２　自己評価の実施体制

⑴ 調査時期　令和３年１月１６日（土）～２月２４日（水）

⑵ 調査項目　別紙資料のとおり

⑶ 調査対象　有効回答者数／対象者数

児童２１６名／２４７名　保護者　２４７名／２５６名　教職員２４名／２４名

３　調査結果　別紙資料のとおり

４　考察【児童･保護者･教職員の総括的考察】

⑴ 全体的には、ほとんどの項目で児童・保護者とも８０％以上が「よくあてはまる」「ややあてはまる」という肯定的な回答を得ることができた。しかし、コロナ禍で学校行事、授業参観が中止になり、特に保護者の、参観する機会、授業に関する項目などについて８０％以上の肯定的な評価ではあるが、他と比較するとやや低い評価を受けた。

⑵ 学校と家庭との連携については、コミュニティスクールとしての評価は、「よくあてはまる」が34％と低い。地域との連携の様子をホームページや学年通信でアピールしているものの、コミュニティスクールとしての活動であることをもっと分かりやすく伝えていきたい。

⑶ 児童の生活については、ほとんどの児童が学級の中では友達と仲良く生活していると答えている。挨拶については、校内では朝だけでなく昼や夕方もよく教員とすれ違った際に気軽に交わしている。今後は、家庭や地域の方へも積極的に挨拶やお礼などの言葉がけをするよう指導していきたい。

(4) 授業については、コロナ禍で制約があったものの、少人数・ＴＴ授業や、ＩＣＴの活用について児童が感じる評価が高い。ただし授業改善について、教職員の評価が低いのは、コロナ禍での授業をせざるをえなかった影響があると考えられる。保護者へも授業参観を通してもっとアピールする必要がある。昨年のタブレットやデジタルＴＶ等の寄贈により、発達段階に応じて取組を進めてきた。次年度は、一人一台端末の整備を機会に、さらにＩＣＴ教育を充実させ、本校の目玉となるよう育てていきたい。

(5) 学校行事については、コロナ禍で運動会は代替行事としてスポーツ大会を開催した。児童、教職員の満足度は高かったが、保護者は、８３％は肯定的ではあるものの、期待の高い保護者もいることが推測された。修学旅行、デイキャンプについては、高い評価であった。コロナ禍でも内容を工夫し、時期の変更が行われた。厳しい状況ではあったが、児童や教職員の満足度が高い結果となった。

(6) 教職員に対しては、昨年度から「勤務時間の管理」に関する質問を行っているが、まだまだ十分とはいえない。一方で教育に熱心に取り組み、子どもの相談にも丁寧に対応する職員への評価は高い方ではあるものの、一人一人に寄り添った対応も求められている。

(7) 安全･施設管理については、コロナ禍で縮小したものの見守り隊やＰＴＡ、コミュニティなどの協力を得ながら進めている取組が高く評価された。清掃状況については、施設の老朽化が進み、なかなかきれいにしても分かりにくい面があるが、保護者からはおおむね良いとの評価をいただいた。施設や備品については、本年度は寄付により体育備品、図書が充実した。いただいた物については、十分活用してよりよい教育を行っていきたい。老朽化した施設備品の修繕、更新は今後の課題である。

５　成果と課題

《成果》

(1) 一人一人の先生方の丁寧で粘り強い日々の指導のおかげで多くの児童が学級での生活を楽しんでおり、友達関係も概ね良好なようである。今後も一人一人を大切にしたきめ細かな対応に心がけていきたい。

(2) 主体的、対話的で深い学びの授業改革は、コロナ禍で十分に展開できなかったが、ＩＣＴを活用した授業は児童から一定の評価を得ている。来年は、ＩＣＴをさらに活用し、授業改革を進めていきたい。

(3) スポーツ大会、日帰り修学旅行、デイキャンプは、制限のある中で工夫して実施したことにより、保護者の理解が得られただけでなく、児童や教職員の満足度が高かった。今後も新しい流れを継続、発展させていくことが必要である。

(4) 児童の安全確保については、見守り隊やＰＴＡ、コミュニティと連携して対応していることが、高く評価された。清掃状況については、老朽化が進む校舎ではあるものの、保護者からはおおむね良いとの評価をいただいた。

《課題》

(1) コロナ禍で参観行事の中止を余儀なくされた。

(2) 参観する機会が減少したことにより、授業に関する評価が低迷した。

(3) タブレットやデジタルテレビを今後さらに活用していく。

６　改善策

(1) 感染対策をとりながら、学校行事を工夫して実施していくことが必要である。

(2) 時間差で参観する機会を設定するなどして、来校できる回数を増やす。

(3) 現職教育でＩＣＴの活用を進め、一人１台端末に対応した指導力を向上させる必要がある。